

「令和4年度 総合計画施策評価結果」 に係るまちづくり審議会委員意見・回答

No.	委員	ご意見等	回答
1	宮原委員	「有効性」の項目について、「令和4年度までの進捗率」あるいは「目標達成率」と表した方がわかりやすくなると思う。	現行計画では「有効性」で施策評価を進めておりますので、現状のままとさせていただきます。いただいたご意見は次期総合計画の政策施策評価の参考とさせていただきます。(企画振興課)
2	宮原委員	「成果/進捗」の意味について、用語の説明がほしい。	「成果/進捗」は現行計画の「成果目標/進捗管理指標」を示しております。目標値や実績値、進捗率に記載がないものについては以下のとおりです。 ・5年に一度のアンケートなど毎年の目標設定や実績値の確認ができないもの ・各種アンケート等にて調査されなくなったもの その他の空欄のものについては失念しておりました、申し訳ございません。今回資料にて修正を行っております。(企画振興課)
3	宮原委員	実績値や進捗率の空欄について説明文等がほしい。	
4	篠原委員	各施策について目標値が入らない理由や説明がほしい。	
5	篠原委員	コード9「公共交通の利便性の向上」について、目標値は登録者より利用者数の方がよいのではないかと。	
6	宮原委員	コード12「防災意識の高揚と防災体制の充実」について、防災訓練参加数が0となっている理由はなぜか。	市が主催する防災訓練のことを指しており、令和4年度についてはコロナ禍により訓練が中止となったため、実績値が0となっております。(総務課)
7	篠原委員	コード17「子育て家庭への細やかな支援の充実」について、目標値は妥当か。また、妥当である理由はなぜか。	目標値については、これまでのトレンドを踏まえた中で設定した数値であります。一定程度の妥当性はあるものと考えますが、柔軟に見直しを図ってまいります。あくまでも進捗管理指標の有効性の判断基準(定量分析)に基づく評価(63%＝C評価)であり、定性分析による加点は行っていないため、評価点は低くなる傾向がございます。
8	阿部委員	進捗管理指標の「子育てポータルサイトユーザー数」の評価で有効性がCの理由はなぜか。	子育て世代の要望の聞き取りの重要性は認識しております。現状、全子育て家庭を対象としたアンケートは計画策定時のみとなっておりますので、今後は進捗管理のための経年意識調査に取り組んでまいります。施策を構成する事務事業の方向性の見直しが必要のため、次期計画では改善してまいります。(子ども家庭支援課)
9	宮原委員	子育て世代への要望の聞き取りは重要であるため、毎年アンケート調査を実施したらどうか。また、施策を構成する事務事業の方向性のコメントについて何を改善すべきであるか理解できない。	
10	阿部委員	コード18「より豊かな幼児教育・保育の実践」について、最終年度の目標値の「現状値維持」という表現に疑問を感じる。	計画書全体として、目標値が現状値と同じ場合には「現状値維持」としております。ご理解いただければ幸いです。目標値等の表し方については、次期総合計画の参考にさせていただきます。(企画振興課)
11	篠原委員	政策Ⅲ-2「心豊かにたくましく生きる子が育つまちを目指す」について、各評価のほとんどがBとなっている。市内の児童生徒の不登校について、評価と関係性はないか。対応など検討しているか。	総合評価については、他の成果指標についていずれもほぼ達成していることからB評価といたしました。また、不登校児童生徒への対応については、児童生徒が不登校となる原因は多岐にわたりますので、個別の支援会議をもち、本人、保護者と相談しながらその児童生徒にあった個別具体的な対応をしております。(教育課)
12	篠原委員	コード26「「する、みる、ささえる」スポーツ活動の推進」について、指導者数の増加のため、人材バンク設立の目的・運営方法・周知など必要ではないか。関連して中学校部活動の2025年度地域移行の対策はどうか。	教育課を事務局とした「部活動の地域移行準備検討会」が行われ、まずは、課題の整理を行っているところです。この会に文化・スポーツ振興課も参加し、連携を図っています。今後、検討会の中で、望ましい地域移行のあり方と合わせて、教育現場が必要とする人財バンクの方向性も検討してまいります。(教育課、文化・スポーツ振興課)

No.	委員	ご意見等	回答
13	阿部委員	コード27「文化財の保存と活用」およびコード28「地域の文化や伝統行事の継承」について、どちらも効率性がC評価であるが、有効性の評価から考えると疑問を感じるため、理由を知りたい。	<p>コード27の効率性C評価は、文書館公開文書目録登録数に関するものですが、古文書や非現用公文書を扱う作業は比較的新しい作業であったため、職員が作業に習熟する期間を要したこと、また文書公開基準が未整備であったことから、C評価としました。今年度は公開文書目録作業が進捗しており、文書公開基準の整備も目途が立っていることから改善を見込んでいます。</p> <p>コード28の効率性C評価は、地域の文化・伝統行事の追加指定に関する項目です。既存の文化・伝統行事は積極的に継続している反面、追加指定の機運が地域で盛り上がらない背景が、地域の少子高齢化・後継者不足であると考えられることから、効率性C評価としております。(生涯学習課)</p>
14	篠原委員	コード27の「市内文化財の視察件数」実績値19件はどの文化財か。 コード28の「伝統行事の後継者」実績値21人はどの行事の後継者か。 歴史文化財を活用した地域活性化や観光・シティプロモーションは検討しているか。	<p>コード27の「市内文化財の視察件数」は令和4年度は最終的に22件で、職員が対応した件数です。視察を受けた文化財は和学校記念館、児玉家住宅、春原家住宅、雷電生家、アケボノソウ化石、土器・土偶です。</p> <p>コード28の「伝統行事の後継者数」は、東町歌舞伎保存会における後継者数です。歴史文化財を活用した地域活性化につきましては、各種保存団体の活動に対し助成を行っております。また、地域や団体の歴史学習会を支援しています。(生涯学習課)</p> <p>第2次東御市観光ビジョンにおいては「観光地域づくりを担う人材の育成と地域ホスピタリティの向上」を施策としており、地域が歴史、文化、伝統などへの理解を深めた上で、地域主体となった来訪者受入体制の構築を図ることで観光資源としてPR出来るものと考えています。観光地域づくり法人である観光協会とともに、今後具体的な検討を要する事項です。(商工観光課)</p> <p>各地区の歴史文化財に市民が触れ、理解を深めていくことが、シティプロモーションの一環であるシビックプライドの醸成につながるものと考えています。市外向けの発信については今後検討してまいります。(企画振興課)</p>
15	宮原委員	コード31「ひとり親・生活保護・生活困窮世帯の自立支援と生活の安定」について、塩尻市では母子・父子自立支援員が一人ひとりに寄り添い、経済的・精神的にきめ細やかな相談支援を行っており、当市においても移住の促進を図る取組の一環として検討してもらいたい。	<p>当市においても母子・父子自立支援員が常駐し、関係部署や関係機関と連携を図りながら、一人ひとりの状況やニーズに応じた相談支援に取り組んでおります。今後も市内外の関係機関との連携強化やよりきめ細やかに包括的な相談支援体制の構築に努め、一人ひとりに寄り添った相談支援を実施してまいります。(福祉課)</p>
16	阿部委員	コード33「障がい者(児)福祉の充実」について、令和4年度の目標値が「現状維持」となっているが根拠は何か。	<p>近年、障がい福祉サービスの利用者が増加傾向にある一方、介護分野の人材不足の状況が続いている中で、支援の質や市職員・介護職員等の福祉に対する意識の低下等を防ぎ、令和3年度の実績値を下回ることが無いよう、「現状維持」を目標としました。(福祉課、子ども家庭支援課)</p>
17	阿部委員	コード34「虐待防止の推進」について、施策を構成する事務事業の方向性で述べられているコメントについて、対象者に寄り添った表現で記載してほしい。	<p>施策を構成する事務事業の方向性のコメントを修正させていただきました。(福祉課、子ども家庭支援課)</p>
18	宮原委員	コード35「高齢者が活躍するまちづくりの推進」について、働く意欲がある高齢者が気軽に働けるような職場やその環境を地域全体で考えて行く必要があり、関係機関とのネットワークによる新たな職場の発掘につなげたい。	<p>今後の取組みの参考とさせていただきます。(福祉課)</p>
19	篠原委員	コード45「観光拠点の整備と情報発信の強化」について、目標値63,400人に対し市内宿泊施設は十分であると考えているか。また、今後、宿泊施設業者の誘致予定はあるか。	<p>目標値の人数を受け入れ可能な施設数であると考えていますが、施設の稼働率には高低がありフルに活用できていない状況です。今後、各宿泊施設が来訪者に選ばれる施設として、高付加価値化による魅力の向上を図ることが必要であると考えています。</p> <p>現在、具体的な誘致は予定しておりませんが、宿泊事業に意欲的な相談等があった場合には実現に向けて取り組んでまいります。(商工観光課)</p>
20	阿部委員	コード47「協働のまちづくりの推進と担い手の育成」について、総合評価Aの理由はなぜか	<p>Withコロナの中、各地域づくり協議会等が工夫し地域ビジョンの実現のための活動を徐々に再開しはじめました。また、令和4年度においては「持続可能な地域づくり・暮らしづくり」と題した講演会を実施し、多くの参加者が地域課題の共有等を図るなど、地域の担い手育成のきっかけにもなったと考えられるため、評価Aとしております。(地域づくり支援室)</p>